

平成 28 年度 (2016) JBCF 事業報告書

平成 27 年 (2015 年) 10 月 11 日第 8 回 JBCF 輪島ロードレースの開催前日に平成 28 年度の「J PRO TOUR 選考基準とスケジュール」を発表しました。

その骨子は、翌年の 2016 年の J PRO TOUR 参戦チームは、2015 年 10 月 30 日開催の最終戦、第 2 回 JBCF 大分いこいの道クリテリウム終了後決定する年間チームランキング等によりシード、シード外合わせ総数 20 チームとするということでした。

さらに、2015 年 12 月 12 日、品川区上大崎の自転車総合ビルにて、2016 年度事業活動方針発表会を開催し、2016 年度の JBCF 基本方針は「継続 拡大 向上」であることをメディア、チーム関係者などへ発表しました。また、最終選考会を経て、UCI コンチネンタル 9 チームを含め継続 22 チームに 2016 年 J PRO TOUR チームライセンスを付与しました。

継続

2016 年度も引き続き J PRO TOUR を魅せるレースに成長させるため、以下のような活動を行いました。

1. JKA 補助金による大会開催継続

JKA の補助金を受けて今年度は下記ロード 4 大会トラック 3 大会の全 7 大会を開催しました。うち 4 大会は 50 回目を数える歴史ある大会であり、2016 JBCF TRACK SERIES は全 3 戦が継続開催として JKA 補助金対象大会として開催されました。

収益事業の少ない連盟運営に JKA 補助金は、連盟活動の進化に大きく寄与しています。

- ① 第 50 回 JBCF 西日本トラック (5 月 22 日 : 岸和田競輪場)
- ② 第 50 回 JBCF 西日本ロードクラシック (7 月 2 日 3 日 : 広島中央森林公園)
- ③ 第 15 回 JBCF 石川サイクルロードレース (7 月 17 日 : 福島県石川町)
- ④ 第 47 回 JBCF 東日本トラック (7 月 10 日 : 松本市美鈴湖自転車競技場)
- ⑤ 第 50 回 JBCF 東日本ロードクラシック (10 月 16 日 : 新潟県南魚沼市)
- ⑥ 第 50 回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ
(10 月 9 日 : 石川県輪島市)
- ⑦ 第 47 回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ
(10 月 2 日 : 伊豆ベロドローム)

2. J スポーツでの J PRO TOUR 総集編を放映しました

①11月28日 ②29日 ③12月4日の3回で各大会前にはYouTubeによる告知映像、大会終了後は15分のダイジェスト映像の配信を行いました。

3. 2016年のJ PRO TOUR チーム登録条件

2015年11月9日J PRO TOUR チーム登録条件を次のような内容にて通知、案内しました。

- ① 2016 J PRO TOUR 参戦チームは、シード15チームとシード外5チームの総数20チームとする。
- ② 新規、継続のシード外チームは主催者枠で選出される。
大会別のワイルドカードはJBCFが保持している
- ③ JPT チームの個人ステータスは2015年より撤廃されているが、以下条件の監督推薦とする
下限枠はJCF2年、JBCF1年以上の加盟と年間3レース以上の出走実績
- ④ チーム運営会社は法人化されていること
- ⑤ **チーム分担金**
チーム年会費、個人年会費とは別に分担金として100万円（税別）。3月末までに納付すること。
分担金は2016年度JPT全大会の参加費、広報費等の一部に充当する

4. JBCF ROAD SERIES 2016 年間アワード

例年通りサイクルモード幕張メッセ（11月7日）のメインステージで多くの観客を前に実施しました。

チーム総合優勝：Team UKYO

個人総合優勝（ルビーレッド）：ホセ・ビセンテ（マトリックスパワータグ）

個人新人賞（ピュアホワイト）：小野寺 玲（宇都宮ブリッツェン）

J ELITE TOUR チーム総合優勝：弱虫ペダルサイクリングチーム

J ELITE TOUR 個人総合優勝（ネクストイエロー）：岡 篤志（弱虫ペダルサイクリングチーム）

J FEMININE TOUR 個人総合優勝（シスターローズ）：唐見 実世子（弱虫ペダルサイクリングチーム）

J YOUTH TOUR 個人総合優勝（アクアブルー）：福田 圭晃（横浜高校自転車競技部）

JBCF 広報ブースは幕張メッセ（11/6～11/8）に出展し、YouTubeで放送した2016年J PRO TOUR全レースの動画を大型モニターで流すなど広報活動に努めました。

拡大

1. 大会開催数

2016年 JBCF ROAD SERIES は、J PRO TOUR 全 23 戦、J ELITE TOUR 全 42 戦、J FEMININE TOUR 全 40 戦、J YOUTH TOUR 全 4 戦を予定し、2015 年度 6 大会であった TWO IN ONE 大会を 8 会場に拡大し、参加人数の増加など予想通りの成果を上げることができました。

尚 2 大会がキャンセルとなりました。第 6 回 JBCF 白浜クリテリウム(4月 17 日/悪天候)
第 2 回 JBCF 三峰山ヒルクライム (7月 10 日/コース崩落)

また新規大会として以下の 11 大会が追加されました。

- ① 岬町クリテリウム (大阪府泉南郡岬町)
- ② ブルータイムトライアル in 鴨川 (千葉県鴨川市)
- ③ ブルークリテリウム in 鴨川 (千葉県鴨川市)
- ④ 奈良クリテリウム (奈良県大和郡山市)
- ⑤ 椿ヶ鼻ヒルクライム (大分県日田市)
- ⑥ 藩庁門タイムトライアル in やまぐち (山口県山口市)
- ⑦ 維新やまぐちクリテリウム (山口県山口市)
- ⑧ 仙台クリテリウム (宮城県仙台市)
- ⑨ まえばしクリテリウム (群馬県前橋市)
- ⑩ まえばし赤城山ヒルクライム (群馬県前橋市)
- ⑪ 幕張新都心クリテリウム (千葉県千葉市)
- ⑫ しゅうなんクリテリウム (山口県周南市) ※

※10月 2 日開催予定であったきらら浜クリテリウムの開催地変更

2. 登録選手数

2016 年 12 月末現在、JBCF 登録選手は 2,912 人 (前年比 107%)、317 チーム (前年比 102%) となりました。

また大会参加者総数は 13,960 人 (前年比 103%) となりました。

向上

1. 講習会の実施

毎年増加する新規チームや選手への競技規則の周知、競技レベルの向上、大会運営に

携わるチームスタッフ、競技役員などのブラッシュアップを目的に下記のような講習会を実施しました。

また各チームアテンダント講習会ではアンチドーピング講習会も併催しルールの徹底を啓蒙しました。講習会終了者には写真入り修了証カードを発行し差別化を行いました。

- ① 第1回 JCF 公認 チームアテンダント講習会 東京 (2月6日) 受講者数 68名
- ② 第2回 JCF 公認 チームアテンダント講習会 大阪 (2月13日) 受講者数 51名
- ③ 第3回 JCF 公認 チームアテンダント講習会 東京 (3月12日) 受講者数 68名
- ④ 第1回 JCF 公認 3級審判講習会 東京 (2月7日) 受講者数 26名

2. JスポーツでJ PRO TOUR 14会場 22レース全戦ダイジェスト速報配信

JBCFはJスポーツとコラボし、2016年に放映される国内外の主要なレース中継の番組の中に5分ほどのJ PRO TOUR速報ダイジェスト番組を放映しました。

3. レース発信力の向上

- ① Twitterによるテキストライブは全戦配信。レース展開を知る上での有力な情報ツールとして今後は内容を向上することを目指します。
- ② J PRO TOUR 公式テーマソングの決定と公開
著名な作曲家の影山ヒロノブ氏の作詞作曲にJ PRO TOURのテーマソング制作を依頼し公開しました。(2016.7.31～)
JAM Project 「Area Z～Song for J-Raiders～」
- ③ インターネットTVでの実況中継とスタジオ番組配信
JBCF初の試みとしてサイバーエージェントが展開するFRESH! by AbemaTVでのライブストリーミング配信を10会場にて実施。合計視聴数140,250
同じくスタジオ番組「ロードレースTV」制作配信全7回 合計視聴数132,810
総視聴数27万3,060という大きな効果を上げました。

4. JBCF公式ガイドブックの発行

2008年初発刊の「J ツアー：旧称」公式ガイドブックを2016年も継続制作し、3月20日のシリーズ初戦、第3回JBCF宇都宮クリテリウムの会場にて配布開始しました。今回は自転車専門誌「バイシクルクラブ」2016年5月号(3月20日発売)の付録として制作し、出版元の樫出版社は宇都宮の会場にブース出展し本誌の有料販売を行いました。発行部数は15万部でありJBCF単独での配布数2万部を大きく拡大することができました。

同じくdocomoのdマガジンに掲載されました

5. 海外レース参加助成金の支給

JPT登録チーム対象に海外UCIレースに参加した場合に1大会10万円（上限5回）の助成金の支給をすることとしました。

6チームより申請がありUCIポイント獲得への支援策として有効に利用されました。

また、JBCF所属のコミッセールが海外大会で執務する場合も1大会5万円の支給を行い1名が対象となりました。